



世界をつなぐ、
世界をつつむ

YKKグループ社会・環境報告書 2007

人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指して

【YKK株式会社】

| | |
|-------|---|
| 創 業 | 1934(昭和9)年1月1日 |
| 資 本 金 | 119億2,271万円 |
| 従 業 員 | 3,400名 2006年12月末日現在 |
| 製造品目 | ファスニング製品、精密機械・装置・金型 |
| 本 社 | 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1 TEL 03-3864-2000 |
| 工 場 | 黒部工場、黒部牧野工場 |

【YKK AP株式会社】

| | |
|-------|---|
| 創 業 | 1957(昭和32)年7月22日 |
| 資 本 金 | 100億円 |
| 従 業 員 | 12,900名 2006年12月末日現在 |
| 製造品目 | 建材製品 |
| 本 社 | 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1 TEL 03-3864-2200 |
| 工 場 | 東北事業所、黒部事業所、滑川事業所、 四国事業所、九州事業所 |

【YKKグループ】

| | |
|--------|--|
| グループ会社 | 世界70カ国・地域 119社 |
| | 国内 22社 |
| | 海外 97社(90工場など計272拠点) |
| 従 業 員 | 41,000名(国内18,000名 海外23,000名) 2006年12月末日現在 |

YKK®

ファスニング事業:

服・カバンなどに使われるファスナー・ボタン・テープなどに加え、さまざまなファスニング商品をご提供しています。その用途は衣料品だけでなく、靴や寝具、医療分野、産業資材と多岐にわたります。

工機事業:

YKKグループの要素技術や研究開発を要として、長年つちかった技術とノウハウを結集し、独自の生産機械、システム、金型などを世界各地のグループ工場へ提供しています。

YKK
ap

住宅建材事業:

より快適な暮らし、新しい暮らしのための住宅を目指し、ドア・サッシからエクステリア、外装建材まで、アルミはもちろん木質系素材や樹脂などをベースに、基本性能をプラス、色やデザインの豊富なバリエーションと機能性を追及したさまざまな商品をお届けしています。また、バリアフリー、断熱環境、リサイクルなどの新しい次元のニーズにも的確にお応えしています。

ビル建材事業:

独自の一貫生産システムとグローバルな展開と数々のビッグプロジェクトでつちかってきた豊富なノウハウを活かし、超高層ビルから中・低層ビルまで、コンポーネントの開発から製造、施工、アフターサービスまで、しっかりとサポートしています。



編集方針

幅広くたくさんの方々はこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報やサイト情報を開示するWeb版に分離し発行しています。

Web版もご覧ください。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2007/index.html>

対象範囲

YKKグループ

(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

対象期間

2006年度(2006年4月1日から2007年3月31日)

次回発行は2008年7月を予定しています。

CONTENTS

- 01 YKKグループの概要
- 03 YKK精神
- 04 トップメッセージ
- 05 YKKグループの社会的責任
- 07 地域社会とともに
- 13 お客様とともに
- 15 従業員とともに
- 19 地球環境とともに
- 26 第三者意見

YKKグループの事業活動の根底にあるもの

「善の巡環」

他人の利益を図らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を吉田忠雄は『善の巡環』と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。



YKKグループは、ファスニング事業と建材事業を2つの中核事業として、日本を含む世界約70カ国/地域で事業活動を行っております。

YKKグループは、あらゆる経営活動において「公正」を価値基準として、お客様に喜ばれ、社会に評価され、社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。

その実現に向けて、YKKグループでは、創業75年、さらには次の創業100年に向けてYKKグループの更なる成長と発展を図るため、「事業価値の更なる向上」と「ブランド価値の確立」に取り組んでいます。

YKKグループは「安心してお付き合い頂ける会社」「真に国際的な会社」「新たな価値を創造する技術の会社」として認知して頂ける企業を目指し、これからも事業活動を推進してまいります。そのためにも、コーポレートガバナンス体制の強化を図ると同時に、コンプライアンスに対する取り組みを強化し、良き企業市民として求められる責任を果たしてまいります所存です。皆様の忌憚のないご意見・ご指摘をいただければ幸いです。

2007年 7月

YKK株式会社 代表取締役社長

吉田 忠裕

YKKグループ経営理念

更なるCORPORATE VALUEを求めて



環境への責任

今日の環境問題は、地球温暖化、廃棄物、有害化学物質などに見られるように、経済活動の増大により様々な形で環境の悪化が現れる一方、私たち一人ひとりの日常生活や通常の事業活動から生じる環境負荷があまりにも大きくなって行くことで、色々と問題が生じております。

こうした環境問題へのかかわりは、グローバル事業展開しているYKKグループとして、各国・地域への環境負荷の少ない持続可能な経済社会システム構築にきっちり参画し、自ら行動しながら事業責任を果たす必要があると考えます。事業活動の環境に与える影響は地球規模のものとなっていることを認識し、環境問題を経営の最重要課題のひとつと捉え、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。

この地球で事業を営む上でメーカーの責任として、事業活動のすべての分野において、商品の設計から製造・廃棄・回収・リサイクルにいたるまでのあらゆる段階で環境課題を認識し、環境政策の執行と環境マネジメント監査を徹底しながら、グローバルな環境経営を推進しています。

重要なことは、社会的責任を果たすため、メーカーとして企業価値を創造するイノベーション、社会価値を創造するイノベーションを意識しながら、徹底した環境配慮型商品を開発・提供することにあります。

YKKグループはファスニング事業において、循環利用を促進するリサイクルファスナーや、カーボンニュートラルを実現する生分解性ファスナーなどの開発に取り組んでおり、窓事業についても、ガラスや窓枠の材質、構造、仕組みによって室内環境を快適にし、かつ省エネ効率を高める窓の開発を行っています。

窓の遮熱、断熱、通風調整の機能を高めることは快適な居住を促進するとともに、住宅やビルの冷暖房にかかるエネルギー消費を大幅に削減し、温室効果ガス削減に貢献することができます。

日本中の家が断熱性の高い高機能な窓になれば年間1,700万トンものCO₂の発生を抑えると言われています。

社会への責任

YKKグループのCSRの中で意識している第一の原則は「現地主義」です。

海外に事業を展開する時は、労務コストを意識しての事業展開ではなく、市場からの要請、地域社会の要請を受けての進出です。その国で「土地っ子になれ」を合言葉に、その国に根付いた事業展開を行ってまいります。

第二の原則は、世界レベルでの「品質至上主義」です。完全一貫生産体制は、モノづくりの「システム」すべてを移植し、原材料から製品化にいたるまでの全工程を自社開発生産するため、YKK独自の生産設備の開発までも自らがかけています。世界共通の品質を創出することで、多くのグローバル顧客から、世界のどこの国から調達しても、YKKブランドとして安心して供給を受けられることで評価をいただいております。

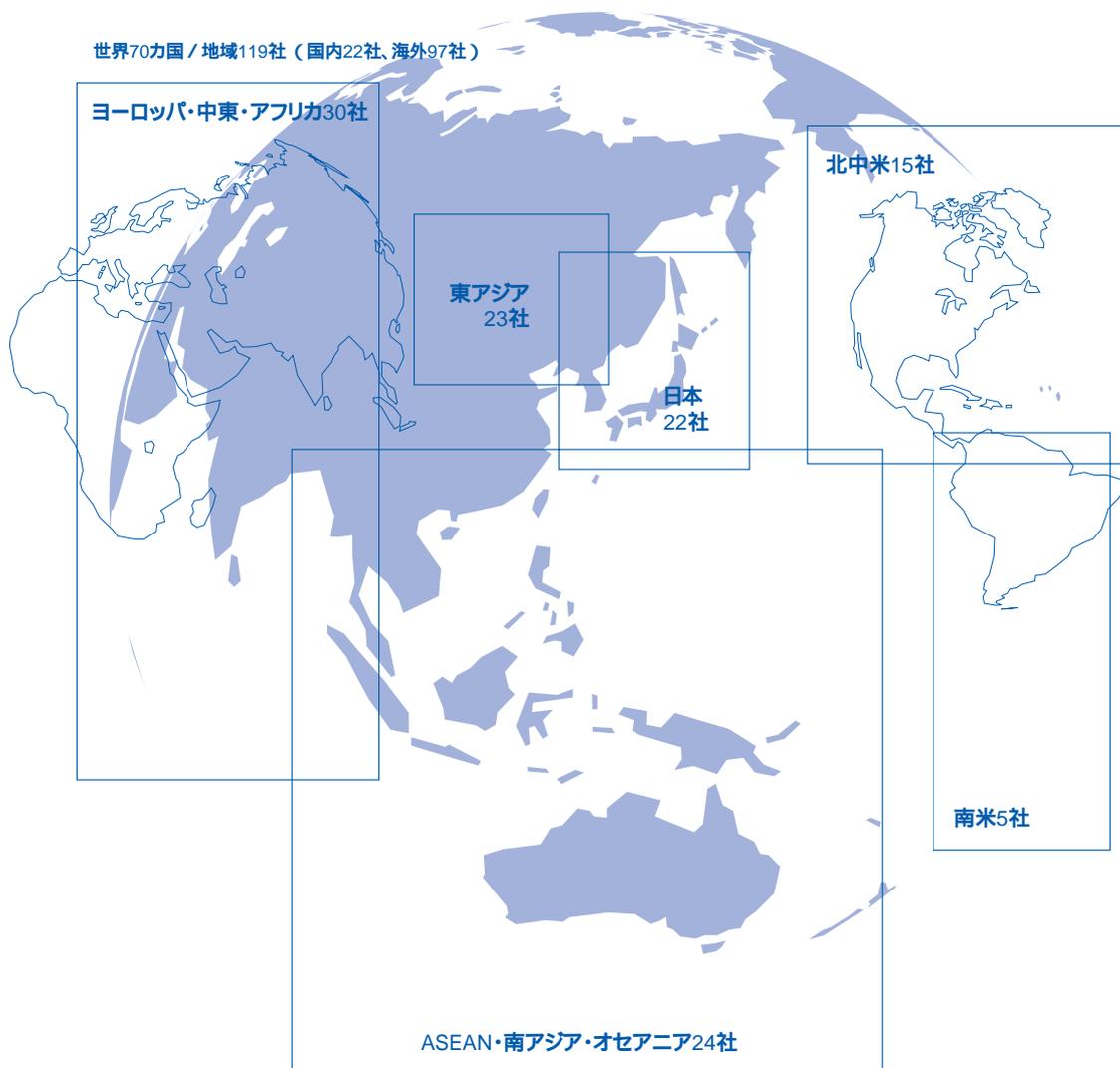
第三の原則は「世界的視点に立った環境問題対応」です。国際基準を遵守することはもとより、もっとレベルの高い目標を持って、YKKグループ全域での同一方針・同一行動の徹底が基本です。

このような考えのもとで、現地の法遵守をベースとして、現地人材の雇用・育成・登用、企業の経営資源を活用した社会事業・貢献、教育や地域の活性化、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。YKKグループは地域に愛され、社会に愛される企業でありつづけるために、地道に企業価値の創造と社会価値の創造を持続的に行っていきたくと考えています。



YKKグループ環境政策推進委員会 委員長
YKK(株)代表取締役 副会長
田家 清

世界70カ国 / 地域119社（国内22社、海外97社）



海外に認められたYKKグループの企業価値

『外壁改装工法』がシンガポール政府より優秀工法賞を受賞

『YKK AP窓シリーズ』が中国建設部より「建設省エネ窓住宅産業貢献金賞」を受賞

< 詳細アドレス >

<http://www.ykkap.co.jp/news/2006/20060501.asp>

<http://www.ykkap.co.jp/news/2006/20060925.asp>



地域社会への貢献に対する YKKグループの考え方

YKKグループの企業活動の根底には、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という『善の巡環』の精神が貫かれています。この精神のもと、本業を活かした社会貢献から、本来の事業活動から離れた教育や地域の活性化、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動にも積極的に取り組んでいます。

YKKグループがいつの時代も地域に愛され、社会に愛される企業でありつづけるために、これからも新しい文化の創造に貢献できるような活動を、地道に行っていきたいと考えています。



YKKインド社は、地域住民に検眼サービスを行い、メガネを必要とされた17名にメガネを贈呈しました。



YKKグループは未来を担う若い世代を応援しています。



JSEC

「ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ 高校生“科学技術”チャレンジ」(主催:朝日新聞社 後援:文部科学省他) 通称JSECは、高校生が科学技術の分野で独自性・創造性を競うコンテストです。2003年より、JSECへの協賛・特別協賛を続けています。



YKKファスニングアワード

ファスナー・面ファスナー・バックル・スナップ & ボタンなどの“ファスニング商品”に焦点を当てた、学生対象のユニークなファッションコンテストです。有望な新人の発掘、支援を目的とし、優秀者には賞金のほかに、副賞として創作活動用の副資材を卒業まで提供します。



YKKアクセサリeward

イタリア北東部のトリエステにて、世界中のデザインスクールの学生を対象としたファッションデザインコンテスト「ITS#FIVE」が開催されました。2006年からYKKの参加によりアクセサリー部門が新設されました。

大学生応援企画



2006「Beyond Your Dreams」

“「なりたい自分」を見つけよう!”と題し、ビジネス、自己実現、コミュニケーションなどの様々な視点から、著名なゲストを招いて、YKK株式会社取締役社長・吉田忠裕とのトークセッションを行いました。

(主催:YKK株式会社 後援:日本経済新聞社 広告局)



YKKグローバルワークショップ

大学生が、YKKグループの海外事業所を訪問し、職場体験、現地の地域貢献活動や環境問題への取り組み、大学、公共機関への訪問などを行い、将来のビジネスにおける物の見方や考え方はもちろんのこと、あらゆる面でグローバルな社会人になるための体験活動です。

(主催:YKKグループ 後援:朝日新聞社)

ツアーズ
YKKグループ産業観光「YKK TOURS」グランドオープン

2006年7月21日(金)よりYKKグループ黒部事業所において、地域観光と企業見学をコラボレートした、新しいスタイルの産業観光「YKK TOURS(ツアーズ)」を開始しました。

「ファスニング事業」「建材事業」「工機事業」のものづくりに関わる体験や見学を通じてYKKグループの歴史や企業についての理解を深めていただくとともに、道中を地域の観光名所を訪れるルートで設定し、YKKグループを育んだ富山県黒部市への理解を促進していただける内容となっています。

富山県黒部地区の数ある観光拠点の一つとして、YKKグループ黒部事業所へ、県内のみならず、広く多くのお客様にお越しいただき、黒部市および富山県の観光振興と交流人口の増大に寄与したいと思っております。

ツアーの詳細・お申し込みは「YKK TOURS」ホームページをご覧ください。

<http://www.ykktours.jp/>



オープニングセレモニーでは、富山県知事、黒部市長から、YKKグループ産業観光への期待の祝辞をいただきました。

ホテル
アクア黒部

Start



生地鼻灯台



生地海岸
(富山湾と能登半島を一望)



黒部の太陽(日本夕陽百選)



前名寺の清水



神明町の共同洗い場

しょうず
清水の里 生地





魚の駅



YKKブラジル農場のコーヒーでコーヒーブレイク

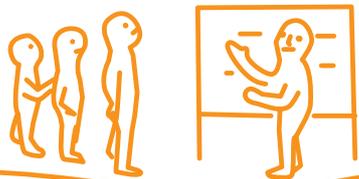
50ビル アトリウム



ファスナーの仕組みや製造工程などの説明を行います



RS YKK TOURS



地域に根ざし、社会とともに

YKKグループは、徹底した現地主義を採用し、地域社会の一員として事業活動を推進し、地域の活性化や教育、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

環境教育支援



YKK株式会社

小学校で温暖化防止に関する授業を実施しました。



YKK株式会社

エコプロダクツ2006の環境バス教育に協賛し、子どもたちに環境教育を実施しました。



YKKトルコ社

近隣の高校で環境問題、ISO14001、リサイクルに関する授業を実施しました。



YKKブラジル社

幼稚園で楽しみながら環境に関する授業を実施しました。



YKKインド社

近隣の中学・高校生を対象に毎年環境教育を実施しています。4年目となる今回は、記念植樹も行いました。



YKK AP蘇州社

市内の中学生に対し、環境施設見学を実施し、環境問題の大切さを知ってもらいました。



地域貢献活動



テープクラフト社

近隣の高校の特殊学級のサポートを行っています。今年度は、このクラスの電話代とプリンターの寄付を行いました。



YKK韓国社

社会福祉会の児童擁護施設でのボランティア活動および寄付金の贈呈をしました。



YKKジブコ・インドネシア社

工場周辺道路の補修工事の資金援助を行い、感謝の記念碑が設置されました。

地域の清掃活動に参加しています。



YKK AP株式会社 四国事業所



YKKポルトガル社



YKKタイ社

地域の植樹活動に参加しています。



YKK AP深圳社



YKKブラジル社



YKKフィリピン社



お客様とのコミュニケーション、 品質に対するYKKグループの考え方

YKKグループは、お客様の声に耳を傾け、独自の発想力と確かな技術力で質の高い商品を提供しつづけ、これからの暮らしと社会に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

お客様とのコミュニケーションを充実させることで、相互理解と今後の事業活動の向上に努めます。

また、グローバルアカウントに対応すべく、グローバルスタンダードを目指し、「世界同一技術、同一機械、同一品質」をコンセプトに差別化された生産ラインの開発に挑戦しています。



仙台



東京



富山



ドイツ(ケルン)



ブラジル(サンバウロ)



トルコ(イスタンブール)



アメリカ(ソルトレイクシティ)



アメリカ(オーランド)



中国(大連)



中国(広州)



中国(北京)



中国(上海)

世界各国で展示会を開催し、お客様との相互理解の向上に努めています。

完全一貫生産体制

YKKグループのモノづくりのこだわりは、お客様に最高の品質をお届けし、それを保証するための「完全一貫生産体制」のスタイルです。極限まで生産性を究めた自社開発のファスニング製造機械が世界各国で稼働しています。



世界で稼働する自社開発ファスニングマシン

グリーン調達

仕入先の皆様との協同的な取り組みにより環境負荷の着実な低減と環境リスクの回避を図るとともに、エコプロダクツ開発の指針となることを目的として、「グリーン調達ガイドライン」を策定しています。

仕入先の皆様へアンケート調査を行い、そこから得られた情報をデータベース化し、商品に含有される有害化学物質の削減、および商品開発・設計の段階で環境負荷の低い材料や部品を選択できるように役立てています。

お客様への製品説明会

YKK台湾社は、日頃よりYKKファスナーをご購入いただいているお客様に対して、YKK製品に関する説明会を行いました。機能・特徴などについて各製品の理解を深め、今後のお客様の商品開発や購買に役立てていただけるよう企画、実施しました。



業界初の「10年保証」

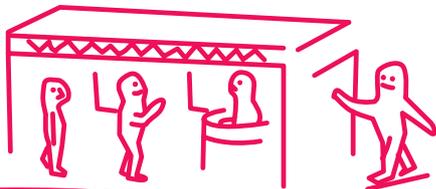
YKK APは窓の新しい価値を提案するカテゴリブランド「APW」を展開しています。窓は住宅に正しく取り付けられて初めてその性能を発揮します。「APW」では商品価値を保証するため、YKK APが開催する「品質技術研修会」を受講した流通店が取り付け後の品質確認を行います。中でも「APW700」は「責任施工研修会」を受講した施工店によって施工を行います。また、商品はシリアルナンバーによる販売先のデータ管理でアフターメンテナンスに備えます。こうした体制を整えることで、これまで2年保証が一般的だったサッシ業界で、初めて「10年保証」のロングライフオリティを約束することが可能となりました。



責任施工研修会風景



シリアルナンバー付き商品ラベル

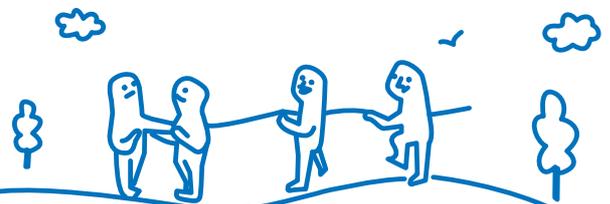


雇用や安全・健康に対する YKKグループの考え方

YKKグループでは、「自律と共生」という人事理念のもと、社員一人ひとりがそれぞれの役割の中で自ら目標を設定し責任ある行動をする、そして会社と社員が一体となって企業価値を高めることを目指しています。また、すべての職場の危険有害要因の排除と働く人の心と身体の健康を保持増進し、時代にふさわしい働きやすい職場環境の形成を目指しています。



YKKトルコ社はピクニックを企画し、従業員の親睦と健康増進を図っています。(従業員とその家族800名が参加しました)



社員の成長を促す人事制度

2006年度は人事制度の見直しを図り、役割を軸にした成果・実力主義の人事制度を2007年度より導入します。

新人事制度のポイント

社員の活力を高め、会社の更なる成長と発展を図るため、社員それぞれが得意な分野で役割を果たすことができるよう、経営理念に掲げる「公正」を価値基準として、「役割と責任」を明確化することにより、「役割」を軸にした適正な評価と処遇を行います。また、社員の役割を明確にするために、「職群」という区分を導入します。

技術・技能を公正に評価できる 専門専任職の新設

モノづくりの会社として、これまで以上に技術と技能に着目し、技術者・技能者の専門・専任分野での価値を公正に評価・処遇していくことを目的として、「専門専任職」を新たに設置します。

モノづくりの現場を活性化させる 業務職群の新設

製造業の根幹となる製造現場や営業現場においては、熟練度・習熟度を評価する仕組みが必要と判断し、「業務職」を新たに設置します。

力を引き出す人材育成

YKKグループの人材育成は、OJT、OFF-JT、自己啓発を3つの柱としています。

OJTでは、「若くしても任せてもらえる」という企業風土の中で、社員のチャレンジ精神を尊重し、若いうちから積極的に責任ある仕事を任せています。

OFF-JTでは、新入社員から役員まで、集合研修、eラーニングなど様々なツールを活用した能力開発を行っています。

自己啓発については、通信教育の受講費補助や公的資格取得奨励金などの支援を行っています。

人材育成においては、女性リーダーの育成・登用にも積極的に取り組んでおり、管理職候補者を対象としたリーダーシップ研修を行っています。2006年度研修参加者17名のうち3名が管理職に登用されています。

また、海外では、ローカルスタッフの教育に力を入れ、経営マネジメントの現地化を推進しています。



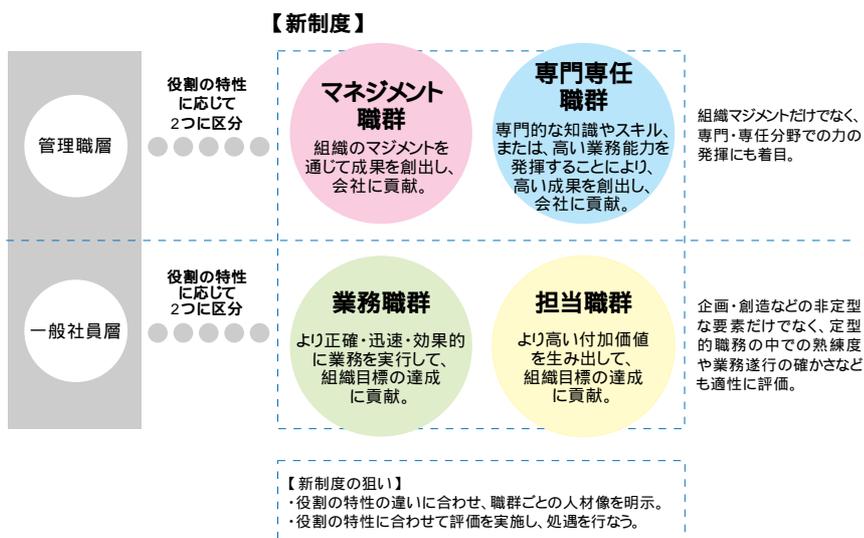
幹部社員研修(YKK中国投資社)

リーダーシップ研修参加者の声

YKKビジネスサポート(株)
黒部人事業務グループ
大久保 利佳子



このリーダーシップ研修を通して、経営戦略やマーケティング・財務分析など、業務とは接点の少ない分野を学べたことや、リーダーとして必要なスキル、現業務に即活用できる手法を習得できたことが私にとって大きな収穫でした。また、事業を超えたいろいろな立場の方々との意見交換し、互いに切磋琢磨できたことも貴重な体験であったと思います。



機会均等への取り組み

仕事と育児の両立を支援する取り組み

YKKグループでは、子供を持つ従業員が子育てをしながら仕事においてもその能力を發揮し、長期的なキャリア形成ができるよう支援しています。2006年度は、男性2名を含む247名が育児休業を取得し、96名が育児勤務制度(短時間・時差勤務)を利用しています。

託児所の開設

YKKインド社は、小さな子どもを持つ社員が安心して働けるよう、託児所を開設しました。現在、0歳から3歳の子ども14名が入所し、2名の保育士と2名のヘルパーが面倒を見ています。託児所内にはミルク、お菓子、フルーツなどが準備されており、玩具や絵本も多数揃えられています。



託児所内(YKKインド社)

障害者雇用の取り組み

1999年に特例子会社としてYKK六甲(株)を設立し、障害者雇用に取り組んでいます。2003年からは積極的に障害者雇用を行い、多くの障害者がやりがいを持って働いています。

高齢者雇用の取り組み

2005年度より「定年退職者再雇用制度」を導入しています。2006年4月には、改正高齢者雇用安定法の主旨に沿う形で制度改正を行いました。現在63歳までの再雇用期間を、2009年までには65歳まで延長していきます。

働きやすい職場づくり

「YKKグループ内部通報制度」を導入し、職場環境や労働時間、社内の不正に関し匿名で相談・報告できる仕組みとなっています。さらにセクハラ、心の悩み、健康については、社内・社外に相談窓口を設けて対応しています。また、海外でも働きやすい職場づくりに向けて様々な活動を行っています。

ベストカンパニー2006

YKK APアメリカ社は、雑誌「US GLASS」で、業界でもっとも働きやすい会社として選ばれました。出版社が行った社員への調査によると、従業員教育、福利厚生、昇給といった点で特に優れているという評価結果でした。誌面ではYKKグループの精神「善の巡環」が社員を含むすべての経営活動に反映されていると述べられています。



ベストカンパニー2006(YKK APアメリカ社)

退職後のかかわり

YKK社友会

YKK社友会は、YKKグループ各社の退職者で、勤続年数25年以上の希望者を対象として構成されています。日本全国4ヶ所で「YKKグループ業績説明会・懇親会」を開催し、経営トップ自らが社友会の皆さんに直接お話しする機会をつくり、YKKファミリーとしての意識を醸成していただいています。



大阪支部社友会

安全衛生

YKKグループでは『危険ゼロ』を目標に、危険性・有害性などの調査の実施と労働安全衛生マネジメントシステムの導入を進めています。



安全講演会

安全衛生教育

安全衛生活動の3本柱である『人づくり、職場づくり、仕組づくり』の内、「安全な人づくり」を目指して、KYT教育・エネルギーリスクアセスメント教育等の一般教育から、職長教育等の法定教育、産業用ロボット等の特別教育、VDT作業者等の特定教育まで、23科目の教育講座を開講しています。2006年度は、黒部事業所で約1,900名が受講しました。

また、YKKグループ安全衛生協議会主催による安全講演会を4月と10月に「ゼロ災害を続けるための安全管理活動」「なぜ重大災害が発生するか」を演題として開催しました。安全担当者はもとより、経営者、管理者、開発・設計者等、各回約250名が参加しました。

労働安全衛生マネジメントシステム

労働災害の撲滅や安全衛生管理の質的向上に向けた最良のシステムと認識し、グループ全体で労働安全衛生マネジメントシステムの導入・運用実施を図っています。

2007年1月にYKK黒部事業所が拡大認証取得、2006年12月にYKK AP黒部・滑川事業所、2007年2月にYKK AP四国事業所が認証取得しました。今後、2008年度中にYKKグループ全体(国内全事業所・関係会社)で導入する計画を立てており、継続して推進しています。



イベント風景(YKK深州社)

第一回環境安全宣伝日の開催

YKK深州社 公明工場は、従業員一人ひとりの環境保護および安全意識の向上を目的に、「第一回環境安全宣伝日(環境・安全に関する啓蒙推進のイベント)」を開催しました。「環境保護及び安全は自分で守る」をスローガンに、安全、消防、環境保護に関するDVDを観賞し、救急方法、消火訓練、現場に貼った環境・安全のイラストの解釈などの啓蒙活動を行いました。

クイズにより楽しみながら環境・安全の意識向上が図られ、また「環境・安全は自分で守る」と各自が署名することで、自覚も芽生えました。

健康の保持・増進

従業員の健康は、充実した社会・職業生活を送るために欠かせない重要な要素と認識し、健康診断受診率100%を目指すとともに、生活習慣病・メンタルなどの疾病予防を目的とした健康教育を実施しています。



エアロピクス教室

健康推進フェスタ

YKK黒部事業所は、従業員の健康増進活動の一環として、生活習慣病予防の知識普及を図ることを目的に、国が生活習慣病予防として提唱する「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後にクスリ」を確実に実践してもらうための情報やノウハウを提供する健康推進フェスタを開催しました。



産業医による禁煙セミナー(YKKドイツ社)

禁煙プロジェクト

YKKドイツ社は、「従業員の高齢化、高喫煙率を考え、従業員の健康管理を会社からサポートしてはどうか?」という提案により『禁煙プロジェクト』をスタートしました。

従業員にとって健康改善、嗜好品出費低減、会社にとって生産性、事務処理効率の改善や病欠率の低減、火災リスクの低減などのメリットがあります。

第1ステップは産業医と相談しながら禁煙希望者を対象にセミナーを開催しました。



環境への取り組みに対する YKKグループの考え方

YKKグループは、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。この環境憲章は、人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指し、企業活動のすべてにわたって環境の保全・改善に向けて行動することを基本理念に掲げています。

深刻化する地球環境問題への全地球規模での取り組みによる持続可能な循環型社会システムの実現が必須の課題となっています。

環境経営4つの約束

エコプロダクツ・サービスの開発と提供

YKKグループは、商品を通じて持続可能な社会づくりに貢献します



環境負荷低減経営の更なる徹底

YKKグループは、事業活動における環境負荷の低減を徹底して進めます



グローバル環境経営システムの運用と活用

YKKグループは、世界のあらゆる地域で『環境との調和』を最優先とした環境マネジメント活動を続けます



環境コミュニケーションの推進

YKKグループは、環境政策を進める上でお客様との『対話』が最も重要であると考え行動します

YKKグループは、世界各国での事業活動がおよぼす環境負荷低減のために、4つの項目を中期環境経営基本政策と定め、それに沿った環境行動目標に取り組んでいます。

YKKグループは、商品を通じて持続可能な社会づくりに貢献します。

エコプロダクツビジョン

環境に配慮した商品(エコプロダクツ)を提供するためのビジョンを設定しています。

「**環**環境高性能」「**安**安全・安心」「**快**快適生活スタイル」の考えをベースに、7つの配慮を開発する商品に取り入れることで、商品を通じて持続可能な社会づくりに貢献していきます。



エコプロダクツ 7つの配慮

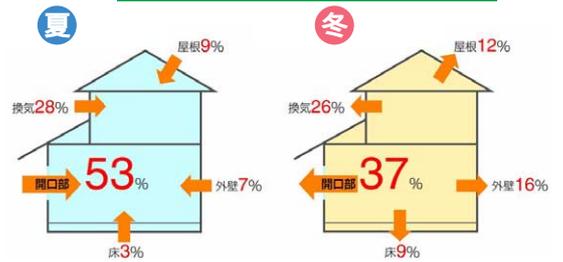
1. 「生態系への配慮」(環)(安)
自然環境や生態系を壊さない原材料の使用
2. 「安全・安心への配慮」(環)(安)(快)
アレルギーなどの健康問題に対応する工夫、有害な物質を含まない商品
3. 「資源への配慮」(環)
製造・流通・使用時のエネルギーや水など資源の使用量を削減する工夫
4. 「3Rへの配慮」(環)
リユース・リデュース・リサイクルなどゴミを減らす工夫、リサイクル原材料の利用
5. 「長期使用への配慮」(環)(安)(快)
長寿命設計、愛着づくり、修理のしやすさ、機能拡張性、アフターサービスの充実
6. 「多様なライフスタイルへの配慮」(環)(安)(快)
使いやすさ、ユーザ指向の生活価値の創造
7. 「積極的な情報開示への配慮」(環)(安)(快)
わかりやすい商品説明、顧客対応への工夫、環境情報提供の工夫

地球温暖化防止を窓で考える

住宅で熱の出入りの一番多いところは窓です。せっかく冷やした夏の冷房や暖めた冬の暖房が窓から逃げないように、また逆に窓から熱や冷気が入ってこないようにできれば、省エネになり、地球温暖化の原因となるCO2の削減にもなります。YKK APは断熱・遮熱性能の高い窓を開発することで、地球温暖化防止に寄与しています。



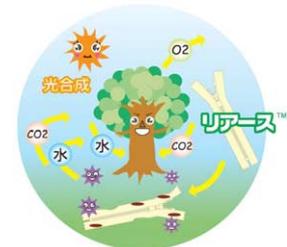
冷暖房時の熱の流入・流出割合



壁や屋根に断熱材(100mm厚)を使用

廃棄物削減をファスナーで考える

私たちの生活を便利にしてきたプラスチック製品ですが、使用後のゴミが大きな問題となっています。YKKは、リサイクル材を使用したファスナー、使用後は再生可能なファスナー、使用後は自然界の微生物によって水と二酸化炭素に分解され自然に還る生分解性ファスナーなど、用途に合わせた商品を開発することで、廃棄物削減に寄与しています。



土壌回復への取り組み

1973年、YKKは工場建設目的に富山県黒部市の海岸地区に約10万坪の土地を購入しました。この土地は以前、耐火レンガの原料になるマグネシアクリンカーという半製品を製造販売していた会社があったところです。この会社では、製造過程でカーバイドスラッジというアルカリ性の汚泥を使用していました。土地の購入時には、それがたくさん残っていましたが、これが廃棄物として法の対象になるという認識が不足していました。

地域住民の方々の不安解消、土地の有効利用を考え、カーバイドスラッジの全面撤去を行うことを決めました。

この廃棄物はアルカリ性であり、カルシウムが半分近くを占めています。したがって、セメントの原料に使えるのではないかと考え、使ってくれるセメント会社を探しました。また、再利用計画を作成して行政とも相談をしました。

結果、1992年に処分を開始し、15年後の2006年11月完了しました。総処分量26万トン、総事業費26億3000万円になりました。最終的に、非常に高い土地になりましたが、本復旧事業を通して環境保全に対するよい教育・啓蒙になった効果もあったのではないかと考えています。

< 経緯 >

1973 工場跡地買収

1975 カーバイドスラッジの移動、築堤
第1期工場建設

1978 カーバイドスラッジの移動、築堤
第2期工場建設

1989 セメント会社との交渉、
県の指導方針確認

1992 カーバイドスラッジ処理(社外リサイクル)開始

2006 カーバイドスラッジ処理完了



2001年5月 カーバイドスラッジの掘り出し(途中経過)



2006年11月 処理完了(更地に)

カーバイドスラッジの処理手順

掘削

工場の一角に埋まっていたカーバイドスラッジを掘り起こします



選別

選別機にかけ、異物を除きます



搬出

カーバイドスラッジはセメント原料となります



セメント原料

除去された異物は分別し、可能な限りリサイクルへ

性状: 泥状(水分約70%)
PH: 12以上
Ca: 約40%
有害物質なし



コンクリートくず

破碎造粒後
路盤材



金属くず

金属材料



廃プラ

サーマル
リサイクル



木くず

焼却



環境負荷低減経営

地球温暖化防止

早くから省エネ投資に積極的に取り組み、CO2削減に貢献しています。更なる削減に向けて、国内外の工場の新設や設備更新時の高効率設備の導入、工程改善、自然エネルギーの利用促進を推進するとともに、EMSを軸とした省エネルギー活動を積極的に推進しています。

また、「チーム・マイナス6%」に参加し、一人ひとりが身近にできる活動を考え実践しています。



ボイラーの排熱を利用し、ボイラーへの供給水を予備加熱(YKKスペイン社)

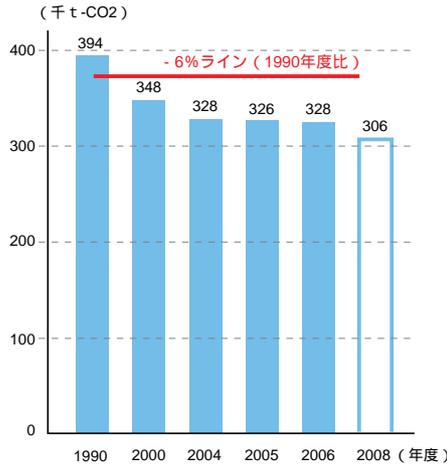


全工場179台のクーラーに温度調節装置を追加(YKK台湾社)

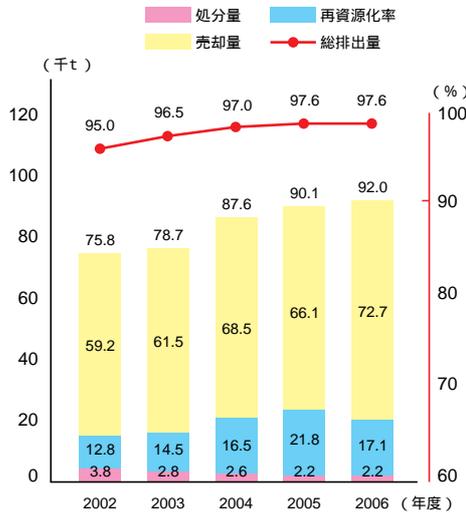


屋外灯を省エネタイプへ切り替え(YKKタイ社)

CO2排出量の推移 (YKKグループ国内主要生産拠点)



廃棄物排出量、再資源化率の推移 (YKKグループ国内)



資源循環

廃棄物を資源と考え再資源化し、ゼロ・エミッション達成に取り組んでいます。2005年度には国内の生産拠点でゼロ・エミッションを達成し、今後は廃棄物総排出量の削減や再資源化方法の質の向上を目指し、更なる環境負荷の最小化に努めています。



排水処理スラッジにセメントなどを混ぜ、ブロックを製作(YKKインド社)



使用済みの溶剤を蒸留分離する装置を導入し、溶剤を回収・再利用(YKKイタリア社)



破砕機を導入し、不良テープ屑を枕、人形、マットなどのクッション材としてリサイクル(YKKインドネシア社PPD工場)

環境リスクマネジメント

法律や協定などの順守はもちろん、化学物質の適正管理、土壌・地下水・大気・水域への地域環境保全および環境事故の未然防止活動など環境リスクの低減に努めています

化学物質対応

原材料中の化学物質の使用削減・適正管理を目指し、2005年に「YKKグループ化学物質管理ガイドライン」を策定しました。2006年度には製品中の化学物質を管理するシステムを構築し、運用を開始しました。製品に含まれる化学物質の種類や量、規制情報などを監視し、原材料のグリーン調達を推進することで、安心・安全な製品の開発に取り組んでいきます。



水酸化ナトリウム溶液によりシアン化水素ガスを中和処理する浄化装置を2機設置(YKKメディテラオ社)



地元の消防が監修のもと、従業員全員参加の避難、消火、化学物質流出防止訓練を実施(YKKギリシャ社)

土壌調査

2002年度より自主的に所有地の過去の利用状況調査や取り扱いのあった有害物質の調査、また必要に応じて汚染状況の分析調査を実施しています。全国の所有地297ヶ所に対し、2006年度までにこれらの調査を211ヶ所(71%)で完了しています。2006年度調査分から、法律で定める指定基準を超過した土壌が1ヶ所確認されました。この土地については、行政に相談し、汚染土壌の飛散防止措置が済んでいる状態にあることから、現状を維持することとなっています。今後は、2008年度までの汚染状況の調査完了を目標に、継続して取り組んでいきます。



土壌の採取調査

PCB含有機器対策

2001年にPCB(ポリ塩化ビフェニル)特別措置法が施行され、PCBを含有する機器については2016年度までの処分完了が義務付けられました。PCB含有機器は法に則り管理・保管しています。これらは、自治体の処理計画に基づき、適正処理を行います。また、2003年に「YKKグループPCB取扱い指針」を策定し、微量PCBの含有状況の確認作業を進めています。微量PCBの含有が確認された機器については、グループ国内10ヶ所の保管拠点にて、適正に管理・保管されています。



微量PCB含有機器専用保管庫



グループ会社のYKK AP東北事業所において廃棄物処理法違反の問題を起こしてしまいました。

皆様方に多大なご迷惑をおかけしたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

YKKグループは、このことを真摯に受け止め、コーポレートガバナンス体制の強化、コンプライアンスに対する意思改革の徹底を推進してまいります。

YKK AP東北事業所における廃棄物処理法違反に対する略式命令について

経緯

YKK AP(株)東北事業所は、廃棄物処分業許可を取得していない産廃業者に産業廃棄物の中間処理の委託をしたことにより、2006年12月25日、YKK AP(株)ならびに社員2名が、仙台区検察庁より「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(「廃棄物処理法」)違反で略式起訴され、同日付をもって仙台簡易裁判所より略式命令を受けました。

対応

本件に関して当局の捜査に全面的に協力するとともに、環境政策担当取締役を本部長とする対策本部を設置し事態の解明と対応に努めてまいりました。処理委託していた廃プラスチックの排出を停止し、委託先に残っていた未処理分を回収しました。また、大崎保健所の確認のもと回収した廃プラスチックおよび製造過程で発生する廃プラスチックも含め、YKK AP東北事業所内にて粉碎処理し、産業廃棄物ではなくリサイクル材料として売却を行っております。なお、本件の対象となった廃棄物については、地域住民への被害・二次公害は発生していないことを確認しております。

再発防止策

今回の問題の発生要因は、コンプライアンスに対する認識不足と、法令知識の不足、社内牽制体制の不備が、このような事態を招いたと認識します。

YKKグループでは、この一連の問題を受け、再発を防止するために2006年度より、YKK(株)およびYKK AP(株)にコンプライアンス担当取締役を任命し、委員会の設置、教育の実施を行うなどコンプライアンス体制の整備とグループ社員に対するコンプライアンスの意識改革への取り組みを徹底しました。

< 推進体制の整備 >

- ・コンプライアンス専任部署を設置しました
- ・コンプライアンス推進チーム(事業別横断組織)を設置しました
- ・コンプライアンスライン(内部通報制度)を導入しました

< 意識改革 >

- ・「コンプライアンスBOOK」を発行し、全従業員へ配布しました
- ・弁護士による役員研修を3ヶ月ごとに開催しています

< 監査の実施 >

- ・すべての産業廃棄物の処理委託契約書を再確認しました
- ・産業廃棄物を処理委託しているすべての中間処理業者の現地確認をしました

YKKグループは、今回のことを真摯に受け止め、更なるコンプライアンス体制の整備と、全社を挙げてコンプライアンスに対する意識改革を一層徹底していく所存です。



事業活動での取り組みについて

YKKグループのCSR活動について毎年インタビューを継続するなかで、「善の巡環」がベースとして社員の日頃の活動の意識に据えられていることを感じます。しかし、そうした基本精神にも関わらず昨年はYKK APの廃棄物処理違反があり、どこにどう問題があったかを再確認する必要があります。YKKとして強い責任を感じ即座に対応されておられますが、今一度社員皆さんの自覚徹底を図ってください。

このような不備について当該事業所が対応することは第一ですが、国内外のいたるサイトで類似の問題が起こる可能性は大きいです。起きたことへの対策だけでなく、事前に問題を発見し事故を防ぐ体制を稼働させるとともに、一人一人の意識を再度引き締めることが重要です。

社会・環境報告書2007について

昨年の報告に続き、本年も冊子を一般の読者向け報告と位置づけ、継続した報告方針であると伺えます。今回さらに海外での活動の報告を広げ、グローバルに善の巡環が浸透していることがよくわかります。

昨年のコメントに関する対応をみるとともに、今年の特徴について下記コメントいたします。



・グループ全体と主要2事業の環境・社会活動

YKKグループ全体の報告に加え、YKK APの詳細活動については別途で報告されていますので、YKKについても別途に報告する方がよいかと考えます。その場合グループ報告は全社で共通する方針や考え方にフォーカスし、事業ごとのパフォーマンスをそれぞれで報告するという構造がわかりやすいです。



・YKKグループ独自の従業員とのかかわりの視点

今回は、海外での取り組みを含める姿勢がよく見られます。YKK APアメリカ社の表彰では「善の巡環」についてもコメントされ、YKK精神が世界で理解されていることは大変評価されることです。

・冊子版とウェブ版

冊子版のなかに主要な指標のデータ(CO2、廃棄物排出量など)を掲載しており、取り組んだ結果がパフォーマンス向上につながっているという報告の流れがわかりやすいです。サイトごとの情報のについては、ウェブ版に数値データを中心に詳細を報告していますが、ローカルな一般読者であれば専門的なデータよりもどんな活動をしているかではないでしょうか。

・その他

他社の排出残渣であるカーバイドスラッジの処理を自主的に行ったことは、評価に値することです。今後も地域環境を主導していく役割を担ってください。

読者のニーズが強いサイトについては、地域に向けた活動の報告も考えられるかと思います。

海野みづえ

株式会社 創コンサルティング
代表取締役 海野みづえ

プロフィール

千葉大学大学院修了後、経営コンサルティング会社勤務を経て、1996年創コンサルティングを設立。
ブラザー工業 社外取締役
東京大学大学院、法政大学大学院 非常勤講師

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

YKKグループはチーム・マイナス6%に参加しています



YKKグループ

YKK株式会社 / YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1

URL <http://www.ykk.co.jp>

お問い合わせ先

YKK株式会社 環境安全衛生グループ

〒938-8601 富山県黒部市吉田200

TEL:0765(54)8160 FAX:0765(54)8149

E-mail:kankyo@ykk.co.jp

発行:YKKグループ 環境政策推進連絡会 2007年7月



[認定番号K0301090]



古紙再生適性
不要となった際は、古紙回収・リサイクルに出してください

Web版（数値データ編）のご案内

本冊子は、広く多くの方へのYKKグループの取り組みについてのご理解を目的としているため、あえて数値データの掲載は抑えています。
その補完として、Webに数値データ編を掲載しています。
以下のアドレスからご覧下さい。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2007/index.html>

<目次>

1. 基本指標：グループ連結売上高、売上高（事業別、国内外）構成比、
営業利益、経常利益
グループ連結従業員数、従業員（事業別、国内外）構成比
2. 人事：平均年齢、平均勤続年齢、男女構成比、平均労働時間
早期離職者、有給休暇消化率、育児休業制度利用者数、
育児勤務制度利用者数、介護休業制度利用者数
安全衛生：労働災害統計（度数率）
健康：健康診断受診率
3. 受賞事例：YKK APシンガポール社 外壁改装工法 優秀工法賞
中国建設部より建設省エネ窓住宅産業貢献金賞
4. リスク情報：事故・災害の発生状況、地域からの苦情、潜在リスクと予防
地域防災への協力（防災備品の提供）
5. 環境マネジメント：マスマバランス、環境行動目標と実績、ISO14001 認証取得実績
環境会計
6. 環境負荷情報：エネルギー種類別（電気、A重油、C重油、灯油、LPG、軽油
ガソリン、燃料合計、水）使用量の推移、CO₂ 排出量の推移、
輸送に係る環境負荷（荷主としての輸送量の把握範囲と実績）
廃棄物排出量・再資源化率、国内主要生産拠点別環境データ、
大気、水質、騒音、ダイオキシン測定値、PRTTR、地下水調査
7. サイト別環境負荷情報：所在地、事業内容、従業員数、土地面積、延べ床面積
（海外会社） ISO1400 認証登録日、電力・燃料使用量、CO₂ 排出量
廃棄物総排出量、再資源化量、再資源化率
コピー用紙使用量、水使用量、排水測定値
漏洩、流出事故、法令違反、トピックス

